

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072600408		
法人名	社会福祉法人 みやこ老人ホーム		
事業所名	みやこの苑 グループホーム		
所在地	福岡県行橋市大字二塚584番地 (電話) 0930-22-0231		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 19 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 12 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所の敷地内には、特別養護老人ホーム・ユニット型特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・デイサービスセンター等が併設されており、全体が1つの地域という考え方でグループホームを運営している。職員は法人施設内で行われる研修や外部の研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図っている。また、グループホームの理念を職員がよく理解し、利用者の一人ひとりの出来る事を見極め、カラオケ・工作・園芸・手芸等、得意な事を生活に取り入れ「その人らしく暮らせるように」職員全員で統一したケアに取り組んでいる。バスハイクやショッピング・外食なども企画していたが、新型コロナウイルス蔓延防止対策で行えずにいた。感染症法上変更となったため、今後は以前のように家族にも参加をしていただける企画を行っていく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 6 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な環境の中であり、同一敷地内に特別養護老人ホームや養護老人ホーム、デイサービス等があり、複合的な福祉施設の配置がされている。家族とは、お互いに自由に話ができるよう情報の共有に努め、報告し合える関係を築くようにしている。職員はグループホームの理念を理解し、利用者が穏やかで落ち着いた環境で安心して過ごせるよう努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方を職員で話し合い、作り出したものを理念とする。玄関・休憩室に理念を掲げており職員が常に意識できる様にしている。	地域密着の視点のある理念を毎日の朝礼時や職員会議等の機会に唱和している。事例検討でも、理念に触れて話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での新型コロナ感染対策のため、地域の方々との交流については行えていないが、法人内での他事業者合同行事の参加や外食について行い始めた。	コロナ禍で祭り等の地域交流は制限されていたが、近隣の住民から餅やミカン等の差し入れをいただくことがある。今後は保育園や幼稚園との交流等を検討している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表の方々には、運営推進会議の事業活動報告で実践状況は理解して頂いていると思うが、地域の方々については不十分と感じている。運営推進会議等で意見を伺いながら検討していきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動内容を報告し、意見やアイデアを頂き、課題を一緒に考え向上に繋げている。また、事故やヒヤリハットの報告を行い、情報共有を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議に利用者家族も参加している。現在は会議で提案された利用者の安全対策等を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員には運営推進会議に毎回出席して頂き活動について意見を頂きながら理解を頂いたり、運営していく上での疑問点などを連絡して相談しており、アドバイザーとして連携を図っている。	介護保険手続き等で行政に出かける以外に、ケアサービスや事業所の状況、ヒヤリハットに関して相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束の弊害は理解しており、帰宅願望や徘徊への対応については、一緒に外出するなどの支援を行っている。	身体拘束防止委員会を設置している。職員研修を行い、身体拘束の弊害を職員に伝えている。玄関にチャイムがあり、日中施錠はしていない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等については、採用時や新任研修でのカリキュラムに取り入れている。虐待と思わしき行為がある場合は報告するようにしている。また、虐待に関するアンケートも月に一度実施し、確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にはパンフレット等で学習する機会を設けている。	成年後見制度等の権利擁護に関する制度を入所時に家族に説明できる体制をとっている。関係資料を研修室に配置している。職員が制度を理解するための研修機会がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には分かり易く説明し、疑問点について伺いながら配慮を行っている。介護報酬の改定や新たな加算取得に関しては、文書等で説明し不明な点があれば説明を行い、理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に伺った要望等を職員で話し合い、改善や実施に向けた検討を行い、運営に反映している。	利用者は日常的に思いや希望を職員に伝える機会がある。家族から、転倒等の予防のためのセンサーの設置や、感染症の予防接種についての要望を受け、検討している。要望や意見は、意見箱や訪問時の会話で聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の会議に出席し、職員からの意見を運営に反映させ、意欲向上や質の確保に努めている。CI-10事業として意見書を出す体制が取られている。	職員会議や職員アンケートにより、運営に関する提案や意見を聴取する機会を設けている。行事の企画などで、職員の提案が活かされている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	近隣の施設と比べ給与の水準は高く、福利厚生面も充実していると考えている。また、研修機会の確保等、スキルアップを図る機会を設け、向上心を持ち働けるよに配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については性別や年齢の枠はない。また、認知症の介護現場では利用者にとってそこで働く人が一番重要な環境と考えており、給与・福利厚生等、働きやすい労働環境の整備に努めている。	職員採用で性別や年齢等を理由に採用対象から外していない。また、差別なく誰もが安心して働ける職場環境づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修で人権教育に努めている。また、以前、企業体の同和研修にも参加していたが、コロナ禍により不参加となっていたが、今後参加を検討している。	利用者の人権尊重や、尊厳に関する研修への取組の必要性を感じて検討している。	人権研修の機会がないので、今後の取り組みを期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育の重要性は認識しており、施設内外の研修へは参加させスキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行橋市グループホーム情報交換会に以前は参加を行い、職員交流会や勉強会等相互のサービス向上に努めていたが、コロナ禍により実施されていない。今後、感染状況により参加を検討する。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用までは本人との関係を築く上で大切な期間であり、本人の話をよく聞き、気持ちを受け止めるようにしている。また、アセスメントにて本人の望んでいることを明確にできるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同様に相談から利用までは家族との関係を築く上で大切な期間と考え、不安や要望など伺い、気持ちを受け止めるようにしている。入所されてからは、家族と連絡を密に行い、生活状況の様子をお知らせしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の介護計画作成時には、本人と家族の要望を伺い、ニーズを見極め、状況に応じどのような支援が必要かを検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の今までの経験や持っている力に応じて、食事づくりの手伝いや洗濯を一緒に行い、利用者同士・職員共に支えあう関係を築いている。また、出来ないことが出来た際には、一緒に喜びを共有し、人生の先輩として敬う。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り合い、情報を共有するようにしている。面会時には日常生活の様子を。2か月一度、利用者毎にお便りを送付し、行事や日常生活の様子をお知らせしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他に友人や知人・隣人の面会に関しても特に制限なく、面会が出来る環境となっている。また、馴染みのデパートに行き食事をするなど、場所の関係継続の支援も行っている。	入所時に家族から馴染みの人や場所を聴き取っている。普段の生活の中で、利用者から友人関係を聴き取り、手紙や連絡の呼びかけをしている。馴染みの場所に出かける等の工夫をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物たたみ等、日常生活の作業を一緒にする中で関係作りが出来ている。また、趣味を通じて関係を深められるように支援している。食事の座席等も利用者同士の関係性を見ながら随時対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡により退所された際には通夜に参列している。また、初盆についてはお参りに伺っている。コロナ禍により行事は中止となりご案内は行えていないが以前は行っており、今後も徐々に催しの際にはご案内を再開したいと考えている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が何を望み、何をしたいのかをまず考えるようにしている。担当者会議や毎月のカンファレンスでも利用者がどの様な思いがあるのか意見を出し合い、スタッフ全員で共有できるようにしている。	日常会話の中で、利用者の何気ない反応から、思いや意向を汲み取るようにしている。職員も利用者一人ひとりの個性を理解し、声かけを工夫している。年賀状を毎年作成し、利用者の思いに応えている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで本人や家族から情報提供して頂いている。また、日々の関わりの中で本人から伺い、スタッフ間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化、日々の過ごし方は介護日誌、個別のケース記録に記載し現状を把握している。申し送りノートを活用し全スタッフで情報の共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで本人や家族の希望、スタッフ、看護師の意見を取り入れた介護計画を作成している。本人の状態変化があれば、随時カンファレンスを行い、家族の意見も伺いながら新たな計画を作成している。	毎月の処遇会議で、利用者や家族、職員の気づきや意見を集約し、一人ひとりの課題を抽出し、具体的な計画を作成している。状態変化がある度に計画の見直しを行い、その都度、家族に報告し、了承を得ている。利用者には職員が口頭で分かりやすく説明し、計画を伝えている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録で利用者の状態変化を継続的に見ることが出来る。また、介護計画の実践状況を毎日チェック表に記入して介護計画の見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の諸事情で病院受診が困難な利用者の場合は同行を行ったり、歯科医の訪問診療や医師の訪問診療をお願いしている。また、理美容に対しても訪問に対応し提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームを含む法人全体としては、地域の消防団・派出所等には協力を頂き避難訓練を行っている。コロナにより中止となっているが、地域の夏祭りには利用者が参加し、神社祭には地域の神輿が来ていた。再開した際には支援を行う考えである。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得て併設施設の嘱託医をかかりつけ医としている方が多い。また、入所前からのかかりつけ医に引き続き受診している方もいる。いずれの場合でも日々の状態の報告を行い、適切な医療が受けられるように支援を行っている。	受診の際、かかりつけ医か法人の嘱託医を選んでもらう形をとっている。かかりつけ医から嘱託医に変更する家族も多い。かかりつけ医受診は家族支援が原則だが、日頃の状態が分かっている職員が同行し、家族と病院で合流することも多い。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日常の健康管理や医療的な支援を行っている。介護職員は利用者の変化に気づいた時には看護師に報告し、必要に応じて看護師がかかりつけ医からの指示を仰ぎ処置を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には病院へ情報の提供を行っている。病院関係や家族と相談しながら、退院時期や退院後の介護方針の話し合いを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期見取りについての説明を行い、確認書を頂いている。重度化した場合は家族の気持ちも変化することもあり、かかりつけ医・家族・職員で今後の方針を確認している。	重度化の指針を明文化し、入所時に家族に説明している。看取りについては家族の希望に添うよう心がけている。敷地内に特別養護老人ホームがあるため、状態の変化に応じて、特別養護老人ホームに転園後、ホームで看取り、入院先の病院で看取り等、家族の希望を尊重して対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で緊急時の対応・応急手当やAEDの取り扱い、心肺蘇生法など実技を交え学んでいる。また、消防署から救急救命法の訓練を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・地震想定等の避難訓練を年3回実施している。夜間想定も訓練を行い、緊急時はホットラインで地域の区長や消防団にも連絡が入るようになっている。本人確認が出来るように首からかける本人カードを使用。	年3回、法人合同で夜間を想定した避難訓練を行っている。ホットラインで、区長や消防団にも連絡が入るようになっている。消防署の協力を得て消火器訓練、心肺蘇生訓練を行っている。非常用備品は事務所に水、レトルト食品を2日分、別の倉庫に手袋、ガウン、紙食器、おむつ等を用意している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格や生活歴に応じた言葉かけや対応を心掛け、排泄や入浴時には特に配慮している。個人情報書類は事務所の保管庫で管理している。	一人ひとりの尊厳を損なわないよう、声かけの仕方を工夫している。不適切な発言等には気づいた職員が互いに声かけ合っている。ケース会議等で内部研修を行って研鑽を積んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動で気持ちの動きを察知している。穏やかでゆっくりした会話の中で本人の希望や気持ちを汲み取り、自己決定できるように対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の表情や行動で気持ちの動きを察知している。穏やかでゆっくりした会話の中で本人の希望や気持ちを汲み取り、自己決定できるように対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装は本人の好み、個性を大切に支援している。お化粧を希望される方や装飾品を好まれる方等その方らしい支援を心掛け、ご家族にも相談しご協力をいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好むものをメニューに取り入れ食事作り（月2回）を行っている。利用者個々の力を活かし、食事の準備・調理・後片付け等スタッフと共に行っている。その他に「お楽しみ昼食会」なども行い、目先を変えた楽しめる昼食も行っている。	通常は法人の配食だが、月2回、職員と利用者が協力して手作り昼食を楽しんでいる。「お楽しみ昼食会」と称して、利用者からの希望、要望で好きなものを昼食に取り入れている。食の楽しみを奪わないことをモットーにしている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に併設施設の栄養士が立てた献立の食事となっており、月に2回の食事作り時は、グループホームで献立をたてて作っている。食事摂取量、水分摂取量を記録し、必要な量を確保できるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの支援や介助、義歯の洗浄など、その人の状態に合わせた援助を行っている。必要に応じ訪問歯科でも対応している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。車いすの方は2人で介助を行い安全を心掛ける等その方に合った支援をしている。また表情やちょっとした仕草、行動を見逃さず、気分を損なわないよう声を掛けてトイレ誘導を行っている。	排泄チェックは現在タブレット端末に入力して見える化を図り、職員で共有できるようにしている。パットの形状変化や使用頻度が減る等、効果が出ている。排便コントロールも医師と協議し、服薬の調節を行うなどの変化もある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食事で繊維の多い野菜や乳酸菌飲料を摂取している。また水分も多く取ってもらうよう心がけている。ラジオ体操、リハビリ体操、食事前に嚥下体操を毎日行い、運動を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間はなるべく希望に応じて利用できるように配慮している。保湿効果のある入浴剤を入れたり、ゆず風呂、屠蘇風呂等、季節を感じさせる入浴を楽しんでもらうよう支援している。	入浴は週2回としているが、風呂は毎日沸かしている。利用者の体調や、入浴日以外の希望に応えるため、できるだけ希望に添うよう努めている。屠蘇湯やゆず湯等、入浴を楽しんでもらうための工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床就寝時間は個別に対応している。個々の生活習慣を尊重し、休息したい時はベッドやソファなど本人の望む場所で休めるようにしている。日中は好きなことで活動していただき、夜は安心して眠れるように個々に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別のファイルにとじて全員が見られるようにしている。薬の変更時には申し送りノートに記入し情報を共有できるようにしている。気になることは医師や薬剤師に相談している。本人と薬を確認し声に出して「本人よし、薬よし、誤薬なし」の指さし確認をする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ることを見極め日常生活の中でそれぞれの得意なことを役割として行っている。(洗濯、料理、編み物、書道等)		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦により天気の良い日は屋外散歩や屋外での食事を行う程度しか出来ていない。以前は、買物にスーパーに行ったり、利用者の希望でドライブや花見・ショッピング・外食等に出かけたり、公民館に出向き、地元の人と脳トレ教室に参加していた。	天気が良ければ、ほとんど毎日近くを散歩している。感染状況を見ながら、夏祭りや花見の茶会など計画している。先日ゆめタウンに出かけ、外食を楽しんでいる。面会に来た家族と外出することも増えている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心される方には少額を所持してもらい、買物の支払いは見守りで支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望に応じて対応している。友人や家族などへの年賀状・暑中見舞い等のやり取りの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂が分かれており食卓テーブルの他に個々にゆったりくつろげるソファを設置している。利用者が共同で作成した季節感がわかる壁飾り等を毎月飾って、利用者の目を楽しませている。居室入口には表札を掛け、トイレは場所がわかるように「便所」と矢印を表記している。	居間は落ち着いた環境で、穏やかに過ごされている。職員と利用者が共同で作成した表札を居室に掲げている。トイレは分かりやすいよう『便所』や『→』の表示を貼って、迷わないようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ソファ、2人掛けのソファ、4人掛けソファ、玄関の椅子などで、それぞれ思い思いにくつろいでいる。年間行事に合わせて季節感を感じるように環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真等思い出深い品を持ってきていただき、本人にとって落ち着ける空間になるように工夫している。	ベッドは施設提供で、他は利用者の好みものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮している。写真やソファ、お気に入りのタンス、テレビ等、利用者それぞれが思いのこもったものを持ち込んでいる。ベッドも利用者の好む向きに置いている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札があり、トイレの場所もわかるように矢印で表示している。安全に移動できるよう廊下、居間、浴室、トイレに手すりを設置し、段差がなく車椅子の方も自操できるような環境を整えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		